

第33回 広島県小児保健研究会 プログラム・抄録集



日時:2011年6月26日(日)13:30~16:30

会場:広島市民病院 10階講堂

第 33 回広島県小児保健研究会プログラム

- 13 : 30 開会挨拶 広島県小児保健研究会 会長 新田 康郎
- 13 : 40 平成 23 年度 広島県小児保健研究会 総会
- 14 : 00 教育講演 I 座長 国立病院機構福山医療センター小児科系 部長 池田 政憲
成長障害について
広島赤十字・原爆病院副院長 小児科部長
西 美和
- 14 : 50 教育講演 II 座長 広島女学院ゲーンズ幼稚園 園長 菊野 秀樹
” Warm Heart プロジェクト”
—広島の次代を担う子どもらの命を抱きしめよう—
比治山大学短期大学部幼児教育科 准教授
七木田 方美
- 15 : 40 教育講演 III 座長 広島県健康福祉局健康対策課 課長 岸本 益実
小児歯科からみた最近のトピックス
広島大学大学院医歯薬学総合研究科 小児歯科学教授
香西 克之
- 16 : 30 閉会挨拶 広島県小児保健研究会 副会長 天野 秀昭

教育講演 I

成長障害について

広島赤十字・原爆病院副院長 小児科部長

西 美和

MEMO*****

教育講演Ⅱ

” Warm Heart プロジェクト”

— 広島の次代を担う子どもらの命を抱きしめよう —

比治山大学短期大学部幼児教育科 准教授

七木田 方美

“Warm Heart プロジェクト” —広島の次代を担う子どもらの命を抱きしめよう—

比治山大学短期大学部

七木田方美

1. ” Warm Heart プロジェクト” とは

広島県小児保健研究会の新田康郎先生、広島県障害者療育支援センターわかば療育園の河野政樹先生、同センター「はみんぐ」の井上房美先生、そして比治山大学キッズサポートシステム Kiss の七木田が平成 23 年度に広島県の（財）ひろしま子ども夢財団の助成を受けて 23 年度に実施するプロジェクトです。



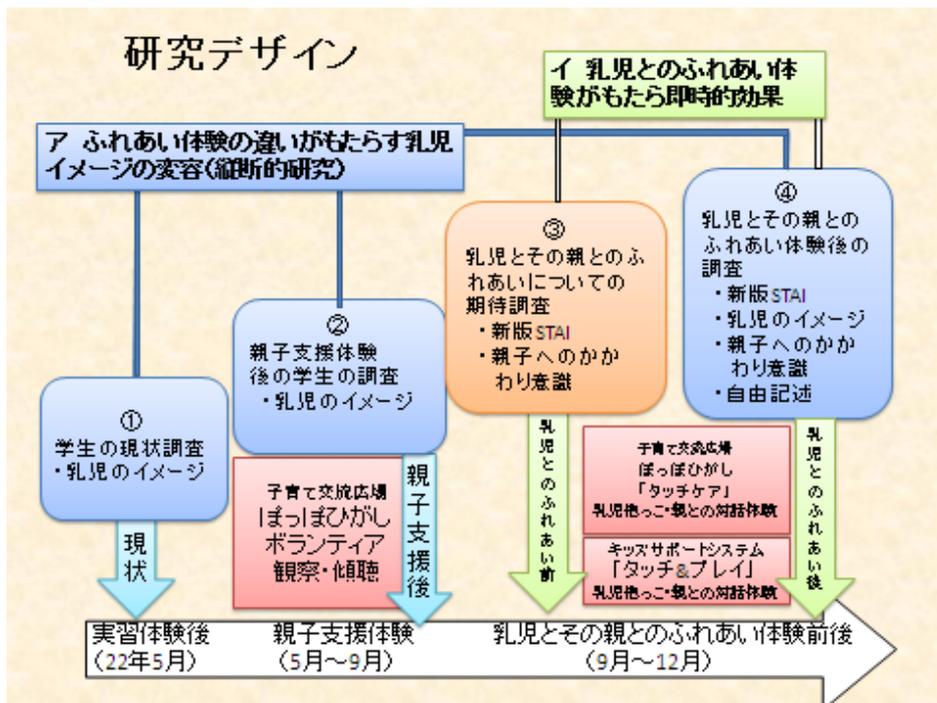
(1) 事業の理念

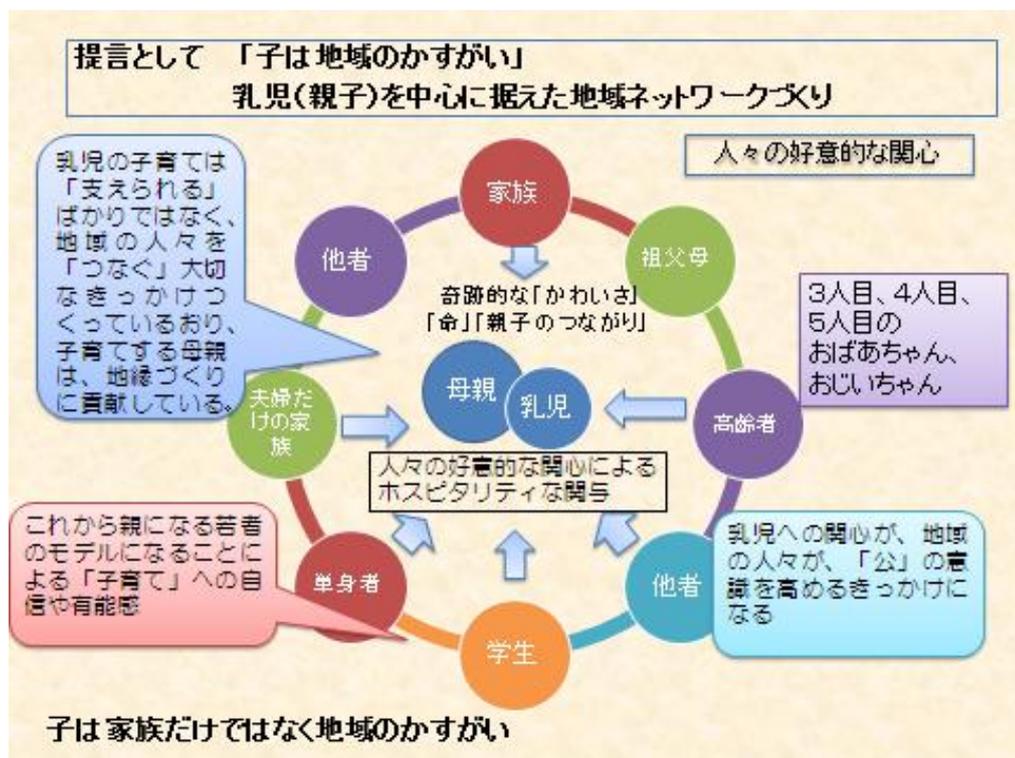
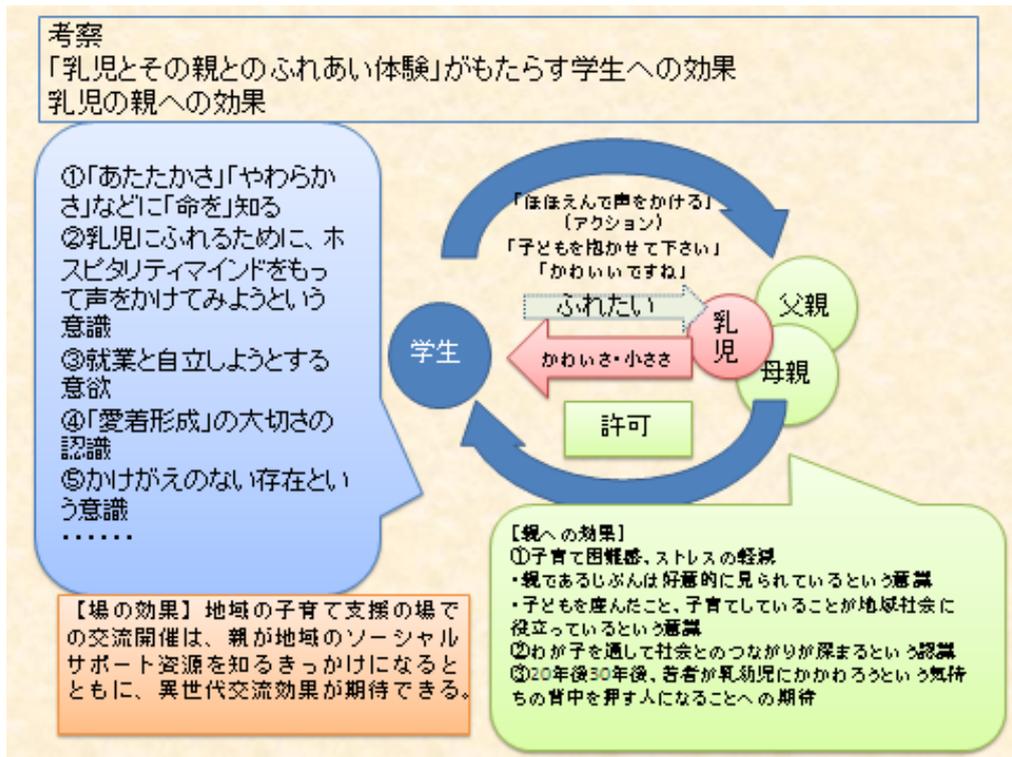
本事業では、構成メンバーの、ノウハウを結集し、支援がもっとも必要とされる、乳児と障害のある子どもを中心に据え、すべての人々が支えあっていることを意識できるよう、「意識」を「ことば」に可視化することを目的に、事業を展開します。事業の理念は次のふたつです。

- ①「ひと」は誰かに見られているということを感じられてはじめて事を成し得る、そんなところがある。
- ②子育て支援が最も必要とされている乳児と障害のある子どものいる親子を本プロジェクトの中心に据えることで、すべての親子の安寧で平穏な生活を創造する。

(2) 研究の背景

すべての乳児のもつ、「奇跡的なかわいらしさ」が人のあたたかい行為を引き出す可能性があり、行為を起こすためのきっかけをつくることの必要性和、赤ちゃんを地域の中心に据えることが、あらたな地縁社会を創造する可能性について、調査研究「ふれあい体験がもたらす大学生の乳児のイメージと親のイメージの変容」の結果をもとに提言した内容をふまえています。(平成 22 年度広島県「若者の子どもと子育てに関する調査研究」)。





2. 事業目的と全体の内容

(1) 目的

以上の理念と研究の背景を踏まえ、職種、世代を超えた「支えあい」によるあたらしい地縁社会創造のための活動を実施することにより、すべての親子が、生活をする「その地域」で、安寧に平穩に暮らし続けられるようにすることを目的とする。

(2) 活動

- ・乳幼児とその親をとり巻く多くの職種・世代が参加できる「きっかけ」をつくる。
- ・乳幼児とその親を取り巻く地域社会の人々のあたたかな「まなざし」と「言葉」を育む。

①乳幼児の親子にあたたかいまなざしと言葉をかけよう！

- a. 「声をかける」という行為は、現代社会の、特に若い世代においてはリスクのある行為であるため、本プロジェクトのリストバンドを作成し、「気持ち」を「行為」にするための心情の後押しをする。
- b. 子育て家庭も、あたたかい言葉をかけられるばかりではなく、自分たちからあたたかい声を地域の人々に向け、あたたかい交流のきっかけを積極的につくる。
- c. リストバンドと同時に「エッセイ」「つぶやき」に実践結果報告をリーフレットも用いて依頼する。
- d. つぶやきや、エッセイは、HPにて随時募集する。
- e. 寄せられたエッセイの何点かは、渡辺久子氏、鷲田清一氏よりコメントを寄せて頂くことにより、多くの世代の人々の参加したくなるようにする。
- f. エッセイ・つぶやきについて、数多くの賞を考案し、公表する。

※対象は子育て家庭、学生、すべての人々であり、リーフレット及びHPにて呼びかける。

②専門職による最新の心身の健康に関する情報提供と共有

- a. 県内小児科医 10 名による子どもの身体の健康についての最新の専門的見解を、執筆公表する。
- b. 県内の児童精神科医および臨床心理士等 10 名により、こどものこころの健康に関する、専門的知識・見解をわかりやすく提供する。

※対象は子育て家庭、学生、すべての人々であり、リーフレットおよびHPにて呼びかける。

③Warm Heart ミーティング

本プロジェクトチームが目指す、子育て家庭を中心に据えた地域の人々のあたたかい言葉とまなざしのかけあいのまとめとして、子育て、医療、発達障害の専門家による対談を実施する。

7/3 (日) 9:30～12:30 比治山大学国信教育館 (6号館1階)

- ・特別講演は堀内勤先生 (聖マリアンナ医科大学小児科学教室名誉教授)
- ・対談は堀内先生と林谷道子先生 (広島市民病院総合周産期母子医療センター主任部長)

12/4 (日) 9:30～12:30

- ・特別公演は榊原洋一先生 (お茶の水大学教授)
 - ・対談は榊原先生と河野政樹先生 (広島県立障害者療育支援センターわかば療育園園長)
 - ・参加差全員により本プロジェクトに寄せられたエッセイ賞等の決定を行う
 - ・老若男女問わずに歌い継がれている童謡を参加者全員で歌唱
- なお、対象は、子育て家庭、学生、メディカル、コメディカル、子育て支援者、保育者、このプロジェクトに関心のある方すべてとする。

④本プロジェクト専用ホームページの開設

上記(1)(2)について、ホームページにて公開、募集を行う。

<http://www.warm-heart-h.jp>



3. お願い

このプロジェクトを成功のキーは、みなさまのご協力です。ご多忙な中、ご手を煩わせまことをお詫び申し上げますとともに、どうかご協力をいただきますようお願い申し上げます。

①みなさまの近くにおられる、乳幼児と親、そして地域にお住いの多くの方に、このプロジェクトをリーフレットにてご案内ください。

②本日お集まりいただきましたみなさまが、本プロジェクトのモデルとしてリストバンドをつけていただき、声やまなざしをかけてください。また、エッセイへのご参加もどうかよろしく願いいたします。

③開設ホームページで紹介する「心身の健康」についてのご執筆を、どうか快くお引き受けください。

Warm Heart Project 事務局 (連絡先)

masamin@hijiyama-u.ac.jp

TEL & Fax 082-229-8621

広島県からの委託を受けて（財）ひろしまこども夢財団が補助する「子育てするならわがまちで！」普及事業
2011年

あったか ハートを届けよう！

赤ちゃんを連れて親子に、
「かわいいですね」と声をかけてみる。

乳幼児を連れて親からお散歩している人に
「こんにちは」と声をかける。



泣いている子どもに
困っているママに
「おかあさん、がんばってね」と
心からエールを送ってみる。

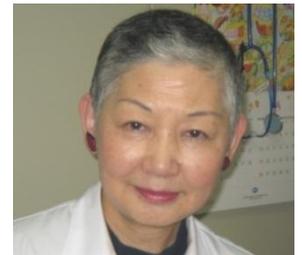
乳幼児を中心にはじまる地域の新しい絆



わたしもエッセイを読みます
(鷲田清一：臨床哲学者)

ひとは 誰かに見守られていると いうことを信じられて
はじめて ことをなし得る そんなところがある……。

○ エッセイ部門
○ つぶやき部門



母子を包み込むまなざし
素敵です (渡辺久子：医師)

テーマ：みーつけた！わたしの町の あったかい！ 光景

《一般の部》

あなたが毎日歩く道筋に、乗る電車にバスに、いつも
出かけるスーパーに、親子の姿があるでしょう！？

「そういえば、あそこで会うなあ」って思い浮かべた
あなたは、きっと、ちょっとほんわか気分になったので
はないでしょうか。

このプロジェクトは、そこに、さらに素敵な
“メガネ”をかけて見つめてくださいというものです。
“メガネ”といっても、いつも使っているメガネではあり
ません。もちろん、新しく買っていただく必要もあり
ません。どんなメガネかというと、《あったかいきもち》
という“気持ち”のメガネです。そして、そのメガネを
通して見えた素敵な瞬間を“ことば”にしてほしいので
す。

子どもも学生さんも
おじいちゃんも
おばあちゃんも
子育て中のあなたも！

《親子の部》

お子さまを連れてのお出かけは、ひとりのときよりも時間が
かかるし、予期せぬ出来事がいっぱい！いつも気が抜けません。

だけど、子どもを連れて歩いていると、いままで出会ったこ
とのないひとが、ニッコリと微笑んでくださったり、席をゆず
ってくださいたり。「子どもがいてよかったな」とおもう瞬間が
あるのではないのでしょうか。

このプロジェクトは、そんなお子さま連れ“あなた”に
お願いがあります。それは、あなたが毎日通る道で、出かけた
先で、「ひと声だけ『こんにちは』と言ってみてください」とい
うお願いです。《ニッコリ》微笑んで下さるだけでもいいのです。
乳幼児独特の愛らしさとそのママの笑顔は、人々を温かい気持
ちににするパワーがありますから……。

そして、子どもがいてよかったなという人々とのふれあいの
瞬間をどうか“ことば”にしてください。

「エッセイ」「つぶやき」 応募方法



①Warm Heart Project の HP から応募する場合

インターネットで検索し、必要事項をお確かめの上ご参加ください！



②封書またははがきで応募する場合

- 「エッセイ」：ご自身の用紙または、右下の空欄に綴ってください。
ご住所、お名前（もしくはニックネーム）、ご連絡先をご記入の上切手を貼って、右の宛先まで →
- 「つぶやき」：右下の切り取り線に必要事項とつぶやきを書いて葉書に貼るか、封筒に入れ、切手を貼って、右の宛先まで →

〒732-8509
 広島市東区牛田新町4丁目1-1
 比治山大学
 Warm Heart プロジェクト 事務局

♪ご応募いただいたエッセイやつぶやきは、本プロジェクトのHPで紹介します。
 ♪臨床哲学者の**鷲田清一氏**（大阪大学総長）と、小児精神科であり母子臨床の第一人者である**渡辺久子氏**（慶応義塾大学）から、あたたかいコメントのプレゼントも！
 どうぞふるってご参加ください！

●募集期間

2011年7月10日～12月10日まで

●エッセイ賞・つぶやき賞の決定

2011年12月4日に開催する Warm Heart プロジェクトミーティングにおける参加者のみなさんのご意見を参考に決定します。

詳しくは [WWW.warm-heart-h.jp](http://www.warm-heart-h.jp)

お問い合わせはFAXで 082-229-8604

主催：Warm Heart project 推進チーム
 比治山大学短期大学部キッズサポートシステムKiss
 広島県小児保健研究会
 広島県立障害者療育支援センターわかば療育園
 同上「はみんぐ」
 後援：広島県小児科医会

「子育てするならわがまちで！」普及補助事業は、地域で子育て応援活動を行っている様々な団体が市町を越えて一緒に取り組むことにより、子育て応援団体のネットワークが広がり、子育て応援活動が活発化することにより、「子育てするなら広島県で！」と誇れる広島県をめざしています。「Warm Heart プロジェクト推進チーム」では、乳幼児とその親をとり巻く多くの職種・世代が参加できる「きっかけ」づくりをすることにより、乳幼児とその親を取り巻く地域社会の人々のあたたかな「まなざし」と「言葉」が地域に広がることを期待し、この「Warm Heart Project HIROSHIMA」を実施します。



つぶやき

おなまえ

連絡先（電話番号またはEメール）

ご住所（〒 — ）

MEMO*****

教育講演Ⅲ

小児歯科からみた最近のトピックス

広島大学大学院医歯薬学総合研究科 小児歯科学教授

香西 克之

広島県小児保健研究会講演
2011. 6. 26(日)
広島市民病院

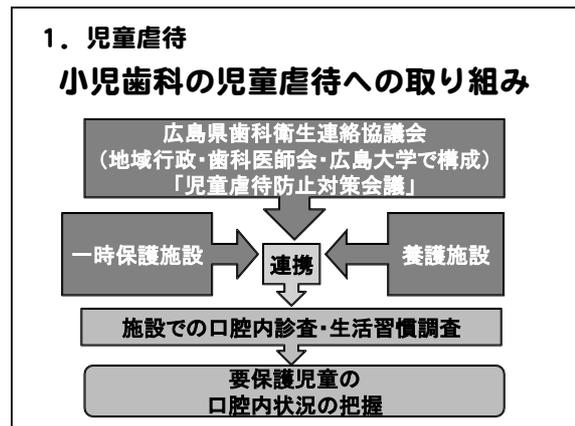
小児歯科からみた最近のトピックス

広島大学大学院医歯薬学総合研究科
小児歯科学研究室
香西克之

小児の歯科医療における最近の傾向

- 小児(患児)の変化**
口腔内: 齲蝕罹患率の減少、齲蝕多発児との2極化、歯肉炎の増加
咀嚼力の低下、永久歯の先天性欠如の増加
診療: 忍耐力の低下、親との関係
- 保護者の変化**
要求が自己都合的(全身麻酔下、1回治療完了など)
歯科情報量が豊富で、整理が不十分になりやすい
過剰な予防実践からネグレクトまで、歯科的認識の格差拡大
- 歯科医療の変化**
小児歯科の専門性の重要性
二次・三次医療システム、病診連携、医歯連携の浸透
セカンドオピニオンの増加
外国人への対応(歯科治療の国際的差異の認識):
フッ化ジアンミン銀(サホライド)は日本でのみ通用する
フッ化物の全身応用はしていない(フッリテーション、フッ素錠剤)
国によって異なる小児歯科医療への考え方
自由標榜によって生じる小児への歯科医療の質の低下
学校歯科保健との連携の重要性

1. 児童虐待
2. 発達障害(がい)児の歯科治療
3. う蝕予防
4. 小児領域の連携



一時保護施設での歯科支援活動

口腔内診査

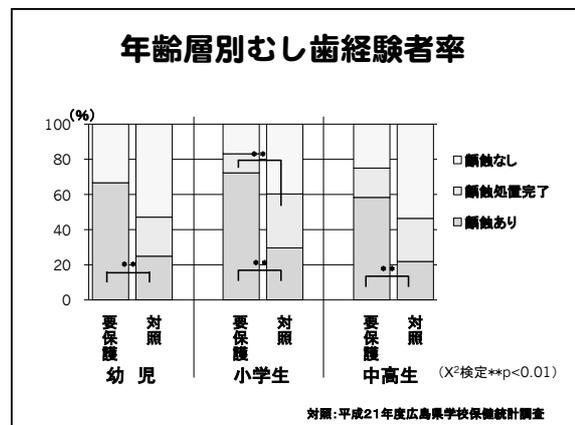
齲蝕活動性試験

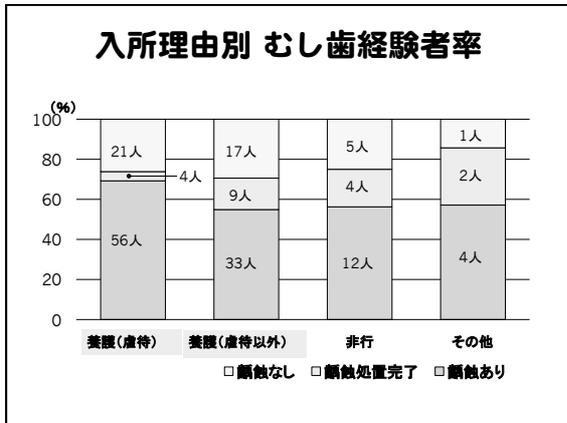
歯口清掃指導

緊急性のある
歯科疾患処置の勧告

予防啓発

アンケート調査をもと
にした生活指導





今後の活動と課題

- 一時保護施設・養護施設での歯科健診の継続
- 保護児童(被虐待児)の歯科的サポート
- 児童虐待の早期発見, 予防における歯科の役割
- 公衆衛生的視点からのむし歯(口腔疾患)予防




オレンジリボンには
児童虐待を防止する
というメッセージが
込められています。

2. 発達障害(がい)児の歯科治療

歯科医療現場での事例

<生活習慣指導での問題>

- 一日に何本も決まった銘柄の缶コーヒーを飲む
- 食事はあんぱんしか食べない
- 模倣による歯磨きで保護者は安心してしまう
- 言葉のオウム返しと同様, 指導は意味をなさない
- 歯みがきの過加圧による歯肉裂傷, ...

<診療室での問題>

- 入室困難
- 非日常的な器具でパニック
- 一般の小児がいること, 他の泣き声でパニック
- 治療終了後に自傷行為, 母親への暴力行為, ...

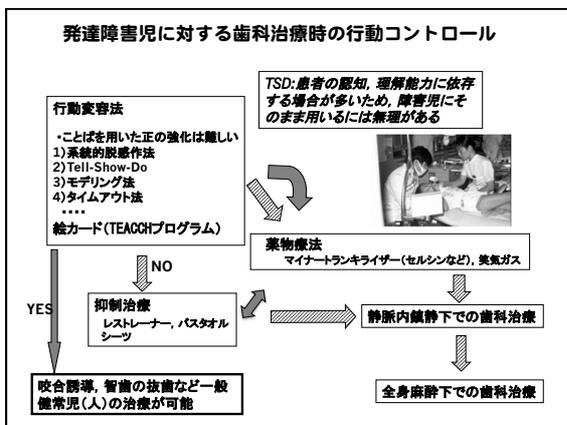
発達障害児の口腔環境および歯科的問題点

口腔環境リスク因子

診療側リスク因子

- 歯みがきの意義が理解できない
むし歯予防と歯みがきが関連づけられない
- 歯みがきへのこだわり
場所, 時間, 仕上げ磨きをする人, 歯ブラシの色,
歯みがきペーストの味
- 食べ物へのこだわり
特定のジュース, お菓子
- 痛みを訴えない
むし歯が重症化しやすい
- 歯科治療の意義が理解できない→協力度不良
- 治療してくれる医療機関が少ない
コストとチャージが折り合わない





体動抑制の方法

- 抑制の必要性の説明と了解, 同意
- 患児(者)へのストレスを軽減し, スムースな診療, 安全な治療を行うことが目的
- 処置内容により抑制の施行は毎回異なる
- 体動抑制フリーを最終目標にする

体動抑制への理解





パスタオルで包み込む
肩がはみ出ないように
四肢の関節部を支える(固定する)
顔を覆う場合は, 両手ではさむように固定する

レストレーナー
膝から下はゆるめておく
パスタオルでぐるんだ後, 肩をかける
肩がはみ出ないように

絵 (写真) カード

• 言語によるコミュニケーションに障害があり、視覚的な感覚に優れていることを利用したTEACCH法の応用

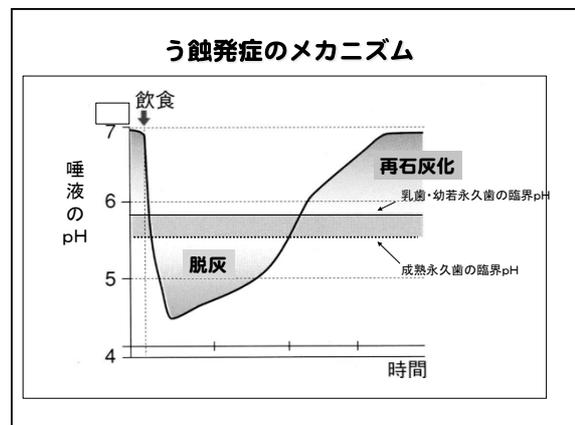
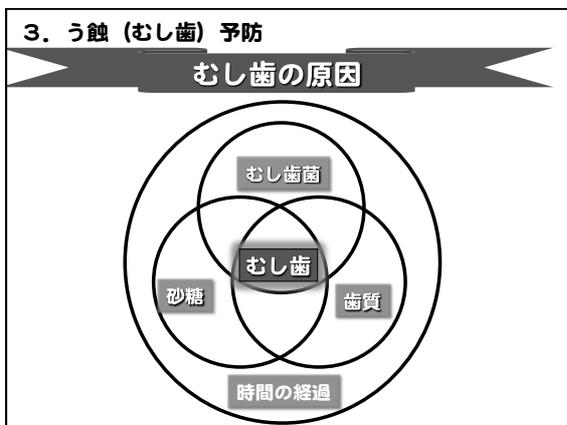
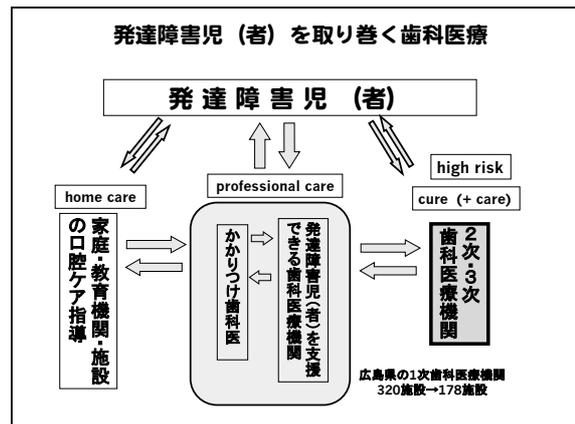
TEACCH法の歯科への応用

小児歯科での受診

くつを脱ぐ(始め)
↓
口腔内検診
ブラッシング
フロッシング
フッ化物塗布
↓
くつを履く(終わり)

特別支援学校等での対応 (歯みがきの指導例)

- 決まった時間、場所、道具
- 先の見通しを立てておく(秒時計が落ちるまで...)
- 絵カードなどを用いて視覚的に指示を与える
- 習慣化を第一の目的に設定
- パニックにパニックで対応しない
- 無理にさせようとしても、それは無理
- みんなで一緒に...は適用しません



むし歯予防法は・・・

1. ミュータンス菌を増殖させないこと
 - シュガーコントロール
代用糖(キシリトールなど), 間食の規則性, 砂糖の制限
 - ブラークコントロール
ブラッシング, フロッシング
2. 歯質強化(耐酸性の強化)
 - フッ化物(フッ素)の応用
フロリデーション, フッ素洗口, フッ化物の歯磨剤添加

↓

集団フッ素洗口・塗布の中止を求める意見書
(日弁連 H23.1.21, 89ページ)

噛むことの効用：よく噛んで食べると唾液がしっかりとります

太らない 味がわかる ことばがよくなる 脳のはたらきがよくなる
異物を認知できる

歯の病気に がんにならない 消化がよくなる 筋肉がつよくなる
ならない

ひみこのはがいへーゼ (G.C.友の会デンタルコミュニケーションNOSより)

味覚の種類と意義

甘い	→ エネルギーのサイン
しょっぱい	→ ミネラルのサイン
すっぱい	→ 腐敗のサイン
苦い	→ 有毒のサイン
うまい	→ 食べる楽しみのサイン

噛ミング30 (サンマル)

「歯・口の健康と食育～噛ミング30 (カミングサンマル) を目指して～」

は、おいしく調理された栄養バランスのとれた食事を感謝の気持ちを抱いて、十分に噛んで味わうことによって身体と心の栄養を摂り込む「食べ方」の周知が必要であること、また、十分に噛むためには歯と口の健康が不可欠であり、窒息予防や五感での味わいなどを考慮して、噛む回数として、従来から目指とされている一口30回を付記したものである。

(歯科保健と食育の在り方に関する検討会報告書より)

4. 小児領域の連携

小児科と小児歯科との連携の推進

- 口腔保健活動 (1999年～)
 - 小児病棟プレールームでのミニ集団指導
 - 小児科スタッフも出席
- 小児病棟への歯科回診 (2001～)
 - 月2回の積極的な回診
 - ベッドでの個別指導
 - 必要に応じて歯科治療

口腔保健指導

病棟ベッドサイドでの歯科治療

化学療法および頭頸部への放射線治療による代表的口腔内合併症

口腔乾燥症 齧齦の多発や口腔粘膜の疼痛などの口腔内不快症状の原因となる	口腔粘膜の炎症 免疫機能低下、抗がん剤や放射線の細胞毒性による粘膜炎など
GVHD 骨髄移植の副作用で疼痛や嚥下障害などを伴い、口腔清掃が困難となる	永久歯の形成不全 永久歯の消失、奇形や歯根の短縮など

神経芽細胞腫の治療が永久歯胚へ及ぼす影響

神経芽細胞腫(StageIV)と診断され、化学療法および放射線療法を受けた患児5名(男児1名、女児4名)

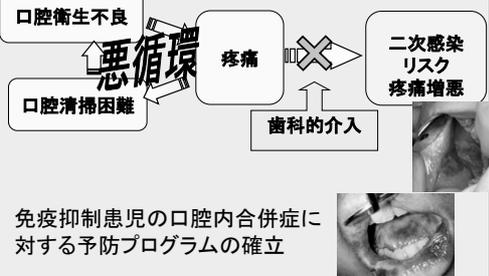
神経芽細胞腫(StageIV)症例

症例	化学療法開始年齢	TBI実施年齢	総線量(Gy)	永久歯の消失(歯)	奇形歯(歯)	歯根形成不全(歯)
1	3y2m	3y10m	12	5	1	12
2	3y2m	3y9m	12	0	6	4
3	3y11m	4y7m	12	6	4	18
4	2y1m	2y11m	10	8	2	18
5	5y5m	6y3m	12	0	0	23

歯の形成に影響を与えることは、以前はあまり知られていない。大量化学療法などにより、生存率が伸びる一方、歯胚の欠損を生じることはQOLを低下させる。患児や保護者への認知や永久歯列完成以降の歯科的対応が今後の課題である。

免疫抑制療法による小児の口腔内合併症と口腔除菌システムの効果
(坪井文, 2009)

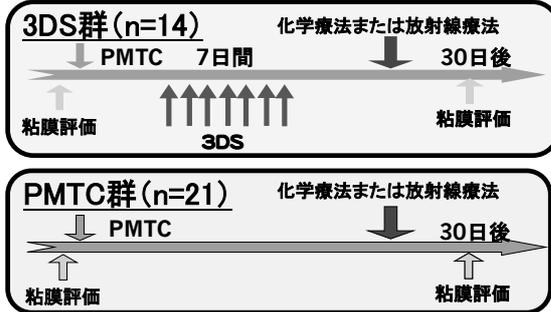
化学療法や放射線療法による口腔粘膜障害



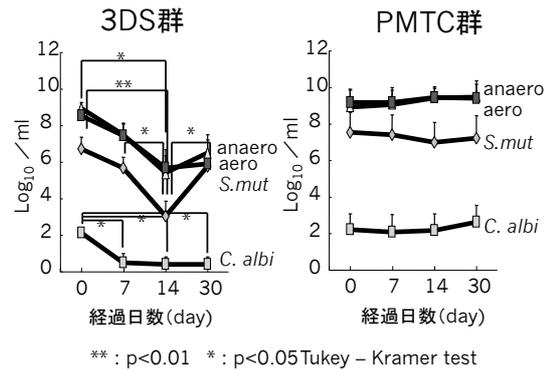
免疫抑制患児の口腔内合併症に対する予防プログラムの確立

口腔ケアプログラム

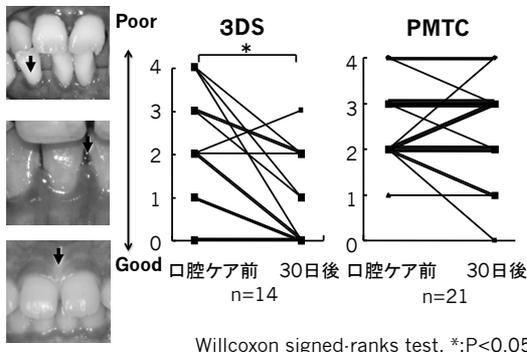
3DS: Dental Drug Delivery system
PMTC: Professional Mechanical Tooth Cleaning



3DSの除菌効果



歯肉粘膜障害における3DS群とPMTC群の比較



**小児科領域との連携により
QOL向上を目指した小児の歯科医療を展開**

小児科・小児歯科の協力体制のもとで
子どものための総合医療
広島大学病院新診療棟3F
小児エリア (2013年オープン予定)

小児病棟への口腔ケアマネジメント
骨髄移植患児への移植前口腔ケア
糖尿病キャンプへの参加(歯科支援)
カンボジアの子どもたちへの歯科支援活動

MEMO*****



連絡先: 広島県小児保健研究会事務局 竹中和子 宛
〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3 広島大学大学院保健学研究科
TEL・FAX 082-257-5378 E-mail: takewank@hiroshima-u.ac.jp
TEL 082-257-5370 FAX 082-257-5374